

2-C-5.

国内販社向けリターナブル容器（オリコン）の使用

＜ダイハツ工業（株）＞

1. 概 要

項 目	内 容
包装資材等削減対策	パレット、コンテナ等の輸送用具の修理、再生による長期使用 輸配送への通い容器の使用 輸送中の緩衝材、包装資材の削減 輸送中の緩衝材、包装資材のグリーン商品（環境負荷の低い素材）の使用
主な対象貨物	自動車用補給部品
導入時期	2002 年 6 月
月間取扱貨物量	145トン／月

2. 背景（実施理由、狙い、導入の経緯）

1) 実施理由

- ・ 包装資材費の低減
- ・ 包装資材の廃棄処理費の削減

2) 狙い

- ・ 梱包資材費の低減：ワンウェイ梱包→リターナブル梱包化
- ・ 到着先での梱包資材廃棄量の削減・廃棄費用の低減

3) 導入の経緯

- ・ リターナブルボックスへの切替時の最大のネックは、返却時の管理工数、輸送費の問題あり。
- ・ コスト吸収方法について、管理工数の負担、販社から弊社までの帰り便確保等を時間をかけて見つけることにより、約 2 年間に販社65社中56社まで切替が完了。

3. 事業内容

（従来）

- ・ 数種類のダンボールボックスに梱包し、出荷
- ・ 出荷先では、ダンボールを廃棄処理業者に有料にて回収依頼

（改善後）

- ・ 2 種類のリターナブルケース（樹脂製オリコン）を採用

4. 対策効果

- ・ ダンボールにくらべ、台あたり7～8倍程度イニシャル設投はコストアップになるが、オリコンは半永久使用が可能。（梱包資材重量の最小化）弊社では、1万数千台を使用中。

低減量（概算）：0.6kg/台 × 15.8 千台 ÷ 9.5t/月

- ・ 送り先の販社としても、ダンボールボックスの廃却費が減少

5. 課 題

- ・ リターナブル化をする場合、空ケースの返却方法が問題。
- ・ 自社だけでなく他社も含めた返却のための輸送便確保ができれば、より進展すると思われる。